

第100回総合科学技術会議議事要旨

(日時) 平成23年11月24日(木) 9:31～9:57

(場所) 総理官邸4階大会議室

(出席者)

議長	野田 佳彦	内閣総理大臣
議員	藤村 修	内閣官房長官
同	古川 元久	科学技術政策担当大臣
同	安住 淳	財務大臣
同	中川 正春	文部科学大臣
同	枝野 幸男	経済産業大臣
同	相澤 益男	常勤(元東京工業大学学長)
同	本庶 佑	常勤(京都大学客員教授)
同	奥村 直樹	常勤(元新日本製鐵(株)代表取締役副社長、技術開発本部長)
同	白石 隆	非常勤(政策研究大学院大学教授)
同	青木 玲子	非常勤(一橋大学経済研究所教授)
同	中鉢 良治	非常勤(ソニー株式会社取締役代表執行役副会長)
同	大西 隆	非常勤(日本学術会議会長)
臨時議員	鹿野 道彦	農林水産大臣
	石田 勝之	内閣府副大臣
	大串 博志	内閣府大臣政務官

(議題)

1. 開会

2. 議事

(1) 科学技術政策において今後取り組むべき重要課題(討議)

(2) 科学技術政策をめぐる動き

(3) その他

3. 配布資料

- 資料 1 - 1 東日本大震災からの復旧・復興における科学技術の役割
- 資料 1 - 2 平成24年度概算要求における科学技術関係予算の重点化と専門調査会の活動
- 資料 2 科学技術イノベーション政策推進のための有識者研究会の開催について
- 資料 3 平成24年度科学技術戦略推進費概算要求方針
- 資料 4 平成21年度及び22年の先端研究助成基金のフォローアップの結果について
- 資料 5 平成24年度科学技術重要政策アクションプランの対象施策について
- 資料 6 第97回総合科学技術会議議事録（案）

「科学技術政策において今後取り組むべき重要課題」、「科学技術政策をめぐる動き」について報告の後、意見交換が行われた。

議題（１）、（２）に関する各議員の発言は以下のとおり。

【古川科学技術政策担当大臣】

それでは、時間となったので、第100回となるが、総合科学技術会議を開会する。

今回は野田政権発足後、初めての総合科学技術会議である。私はこの政権で科学技術政策担当大臣とともに、国家戦略担当大臣も拝命しているが、言うまでもなく科学技術イノベーションは国家戦略における重要な柱であり、成長戦略を実現するエンジンでもある。

科学技術政策とイノベーション政策を一体として強力に推進すべく、今回は総合科学技術会議の現在の主要な取り組み、そして今後取り組むべき重要課題、そして国家戦略としての科学技術イノベーション政策をより強力に推進するための体制について議論していただければと考えている。

【相澤議員】

今、総合科学技術会議には、自ら策定に当たった第４期科学技術基本計画を責任を持って推進することが突きつけられており、一刻の猶予もない。基本計画では、「震災から復興・再生を遂げ、将来にわたる持続的な成長と社会の発展を実現する国を目指す」と高らかに掲げている。また、「国家戦略として科学技術イノベーション政策を一体的に推進する」ことを明記している。

2025年には、世界の人口は80億人になり、その３分の２はアジアに住むことになり、アジ

アは世界の成長センターになる。しかしながら、気候変動、自然災害、ますます深刻化の一途である。エネルギー資源の争奪は熾烈化を極め、地球の限界をはるかに超えるということになり、人類の共存が危機にさらされるという状況である。さらに、科学技術においても競争が激化している。こうした危機、課題を回避しては、持続的な成長はあり得ない。

そこで、発想の転換を図ったところ。科学技術イノベーションにより、危機、課題を解決に向け、持続的な成長への道を開き、社会の発展をもたらすという政策転換である。急速な経済成長を遂げた中国、インド、韓国、シンガポールは、科学技術投資を劇的に増加し、国家戦略として国際競争力の強化を図っている。先日、韓国の国家科学技術委員会と総合科学技術会議の政策対話をソウルで開催した。その際、新組織が委員長を大臣格とし、科学技術予算の配分権の大幅な拡大を図ったということが明らかになった。我が国がこれらの国々の後塵を拝するようなことがあってはならない。

日本には世界に誇るべき科学技術力がある。ぜひ世界にアピールしていただきたい。特にアジア、ひいては世界におけるリーダーシップ発揮のカギである。ただし、相互依存性の複雑化がこれだけ進展して来たので、科学技術イノベーションのグローバル戦略がかなめである。

本日の会議では、これらについて総理のもとで閣僚議員と有識者議員の議論をぜひ進めていただきたいとお願い申し上げる。

【本席議員】

冒頭に古川大臣から非常に力強いメッセージをいただいた。すなわち科学技術政策というのは国家の基本であると、このことは最も重要なことであろうと思うが、しかし一般国民の中では必ずしもそういうふうに受け取ってもらっていない。

実は先ほどから議論があるように、世界は既に限られた資源の上に膨大な人口を抱え、国家間の生き残りゲームに入っている。これを勝ち抜くためには、具体的な言葉で言うと、例えば防災、国防、こういったものに科学技術なしに我々は対抗できない。もちろんエネルギー、食糧、さらには金融政策に関しても、高度な情報、数学なしにこれをきちっとやることはできないわけで、こういう具体的なものになると、国民の理解は得やすいと思う。

特にこれから我々が考えていかななくてはいけないのは、日本が真っ先に当面する超高齢化社会である。これはある意味でピンチだが、できればこれをチャンスにするような新しい総合的な科学技術政策を日本が打ち出して、そのノウハウを東南アジア、中国も追っかけ、そういう状況になって来るので、輸出することが出来る。これをやるためには、きちんとした予防医学

をやって、そして老人が健康で過ごせるようになる。

それから、高齢者が働けるような環境づくり、これは住宅から、医療から、介護支援のロボットから、あらゆるものをそこに投入したそういうタウンをつくる、そういったことをこれから我々が考えていかないと、よその国ではまだそこまでいっていないので、まず我々が責任を持ってやっていかなければいけない。こういうふうなことをやっていくためにも、私は現在古川大臣のもとで総合科学技術会議の強化ということを御検討いただいているので、科学技術を国家のかなめの戦略に構築していくためのシステムづくりをぜひお願いしたい。

【奥村議員】

1点先ほどのアクションプランの各府省との対話で感じたことを申し上げたいと思う。今回の震災は1000年に一度の未曾有の出来事であるにもかかわらず、研究開発予算の各府省の縦割り、これが極めて厳然として残っていることに、私は民間の出身だが、唖然とした。

こういう際に研究開発予算を動かせるようにしないで、いつどういう事態で研究開発予算を移動ができるのかということで、今回痛烈にこの事態を深刻に受けとめている。いかなる文章、計画を書こうとも、予算の移動ができないようであれば、これは極めてゆゆしきことだということを実感した。

【白石議員】

今、先ほど本席議員から少し指摘されたことだが、世界は都市の競争、それから最近の言葉で言うとメガ・リージョンの競争ということになっている。それが例えば中国の場合に、中国全体として発展しているのではなくて、北京を中心とする地域だとか、上海を中心とする地域だとか、あるいはシンガポールを中心とする地域だとか、あるいはアメリカの場合だと、サンフランシスコを中心とするシリコンバレーだとか、こういうハブ都市とメガ・リージョンをどうやって発展させるかというのが日本の場合にも、これからの経済成長戦略の基本になるだろうと私は考えている。その中で通商政策、経済連携政策、あるいはエネルギー政策、都市政策などと並んで、科学技術イノベーション政策というのは、一つはもちろん科学技術の発展、それから高度の人材養成、それからイノベーションのエコシステムの形成、こういうことで重要だということで、ぜひ科学技術イノベーション政策というのをもっと大きな国家戦略の中の一つの重要なエレメントだという、そういうふうにして考えて、ぜひこれから取り組んでいただければと思う。

【中鉢議員】

今年になって、奇しくも米中韓のトップがそろって科学技術イノベーション政策の重要性を強調している。オバマ大統領は一般教書演説の中で、イノベーションと教育への投資が雇用を生むと述べており、また温家宝首相もさきの夏季ダボスで科学技術予算の拡充を述べている。

今、総合科学技術会議の改組や予算の多寡が議論されているが、我が国において強い科学、強い技術、強いイノベーションが新しい日本をつくっていくんだという、こういう意思が前提ではないかと思う。国としてこうした強いメッセージを発言し続けることによって、日本の存在を高からしめていただきたいと思います。

【大西議員】

申し上げたいことは2つ。

1つは、これは私どもの組織（日本学術会議）についてもそうだが、この震災、あるいは原発事故で科学技術、特に科学の応用のあり方について、非常に反省が求められていると、批判も多かったということで、やはり国民生活、あるいは国民の意識に根差して研究の方向を決めたり、内容を決めていくという、そうした国民との対話ということを私どもの組織としてもやっていかなければいけないし、総合科学技術会議としても、そうした視点がより重要になるというのが1つ。

それから、2つ目は皆さん言われたが、やはりアジアが大きく変わりつつあると、人口で非常に大きなかたまりであるし、そこでいろいろな科学技術が発達して、産業に応用されようとしているということだと思う。

私どもも、アジア学術会議というアジアのネットワークをつくって、アジアの学者との交流をやっているが、そうした学術が産業に結びついていくというのが急速にアジアでも進んでいくと思うので、私は国内の充実はもとより、アジアにおける日本の役割というのをかなり重視していく必要が今後は出てくると感じている。

【青木議員】

ほかの先生方が科学技術の重要性は十分主張されたが、1つは指摘されているのは、もう少し強調すべきだと思うのは、科学技術というのはほかのエネルギー政策、年金政策、雇用政策、産業政策と連携してやらなければならないことで、それはまさに総理大臣を中心の大臣の方々の連携でやっていただきたいと思います。

【中川文部科学大臣】

それぞれ科学技術の原点に戻った重要性というのは、しっかり確認をしながら頑張っていかなければいけないと思うが、今回アクションプランという形で概算要求の前にまとめていただいた手法というのは、これは非常に生きていると思っており、評価をしていきたいと思う。

このような方向性を事前に出していただいて、各省庁におろしてもらうことによって、省庁間の連携や流動性といったものが、一つ一つ出てくるのではないかと考えており、ぜひこれは続けていただきたいと思っている。

それから、もう一つはこの改組の話も出ているが、骨太な戦略性を持った議論というのが必要だと考えており、そういう意味でも課題を解決していく、課題解決型の議論が一つ、それからもう一方で骨太な世界戦略を持った議論がもう一つ、この2つが両立して初めて機能していくのだろうと思っている。それを将来の課題として持っていきたい。

【鹿野農林水産大臣】

大きな視点からの御意見があったが、ライフイノベーション等々について、農林水産省もそれに向けて取り組んでいる。これからアクションプランをさらに推進していくということの中で、農林水産物は本当に考えられないような機能性を持っている。

免疫力を高めるようなものがそういうものを病気になる前にどうするかということも非常に大事であるので、この農林水産物の持つ機能性というものの、技術開発について、きちっと位置づけをしてもらうということも非常に大事なことはないかと思うので、その点よろしく願います。

【枝野経済産業大臣】

奥村議員の指摘というのは、私は重要だと思っており、ここまでもめり張りをつける努力をしてきているが、来年度予算についても、ここからのめり張りを、特に省庁の縦割りや局ごとの縦割りがあるので、ぜひ従来の配分を無視して、財務大臣と科学技術政策担当大臣のところで、しっかりとめり張りをつけていただきたい。

それから、今年はこれで進むしかないが、来年はもっと科学技術に関連する予算を科学技術政策担当大臣のところに集約をして、はじめからやっていかないといけないと思うので、ぜひよろしく願いたい。

【中川文部科学大臣】

この流れと同時に研究開発法人の整理というのがあると思うが、一方で、通則法で横串を刺して、ほかの独立行政法人と同じ形で整理をするという今政府の中で流れがあり、これと研究開発法人とを同軸で考えてしまうと、逆に縮んでしまうのではないかと私どもは危機感を持っている。そういう意味では改めてこの研究開発法人の類型化というものを個別に独立した形で作っていくべきだと思っている。それがいわゆる戦略本部から具体的に展開するときの基本になっていくと思っており、そこを指摘させていただきたいと思うし、そこは整理をしていく課題だと思っている。

(報道関係者入室)

【野田議長(内閣総理大臣)】

今日は、記念すべき100回目の総合科学技術会議、野田政権にとっては1回目の会議だったが、大変闊達な御議論をいただき御礼申し上げます。

今、この国に漂っている閉塞感を吹き飛ばして、どなたかが今課題先進国という言葉が使われたが、そうした課題、ボトルネックを克服していくためにも、科学技術イノベーション政策というのは大変重要であると思うし、これから国家戦略を考える際の主力エンジンに位置づけなければいけないだろうと思う。

今日の御議論なども踏まえて、さはさりながら、財政の制約もあるが、そうした財政の制約の中でも、アクションプランなどの御提起などを踏まえ、メリ張りのきいた重点配分をしていきたいと思う。

加えて、この科学技術イノベーション施策を推進するための司令塔の話は、これはまたこれからも引き続き議論をしたいと思うが、はやぶさの成功であるとか、iPS細胞であるとか、夢をかき立てるようなことが出てくると、だんだんと活気が出てくる。

今回の4期の計画を着実に実施することの中で、これから若手の研究者の皆さんが野心的にフロンティアに挑戦をしていくんだというような空気をぜひ皆さんとつくっていきたいと思っている。

そういうことで、これからも先生方にはまた闊達な御議論をいただいて、そして御提起をいただければ大変ありがたい。

(報道関係者退室)

【古川科学技術政策担当大臣】

それでは、以上で会議を終了させていただきます。

なお、前回の議事録と本日の資料は公表させていただきます。